

はばたけ！常滑焼



写真 1



写真 2



写真 3



写真 4

陶磁器業界は消費者ニーズの多様化、海外製品の流入などから非常に厳しい環境が続き、新規性のある商品開発が望まれています。常滑市では幸い今年 2 月に中部国際空港が開港し、5 月までの 2 ヶ月間で 400 万人の来場者があり、15,000 m²にも及ぶ商業施設も売上高約 42 億円と好評です。空港自体の観光地化に伴って常滑市内を訪れる人々も増えています。こうした来訪者をターゲットにした魅力ある土産品の開発をめざしました。

土産品のデザイン開発では、常滑らしさをテーマとしました。近年、陶磁器業界も大都市の消費者の好みに合わせて商品開発を進めた結果、どこの陶産地も同じようなテイストの商品を作り出し、やきもの産地が本来持っていた産地の個性が薄らいできています。今後は産地の持つ伝統技法や特徴を強調し、他の産地や海外製品との差別化を図る必要があります。

今回提案した土産品の一つは、常滑の伝統素材である朱泥素地を使った万年筆、ボールペン、ポケットナイフ、マウスです（写真 1）。実用性よりも趣味性を強く出し、プレゼントだけでなく自分用としても魅力的な高付加価値商品としてデザインしました。写真 2 のように軸部の装飾には常滑焼の得意とする技術の一つである「文字彫り」や「のた絵」技法を用いて、個人の名前や記念の言葉を入れたり、花柄などで装飾しました。

また、子供向けに 100% やきものの鉛筆を作りました（写真 3）。もともと鉛筆の芯自体、黒鉛と粘土を混ぜ焼き固めた焼き物ですが、今回は焼いてもあまり硬くない素材を選び、軸も焼き物としました。普通の木の鉛筆のようにナイフで削ることができます。小さなマスコットを付けたり、文字の刻印、色鉛筆などのバリエーションが考えられます。現在この鉛筆の実用新案登録も済み、商品化する企業を募っています。

写真 4 は市販の電気蚊取り器をセットできる常滑焼のカバーです。この試作品は、和のインテリアの雰囲気合うようデザインしました。



常滑窯業技術センター 水野 潤 (jiyun_mizuno@pref.aichi.lg.jp)

研究テーマ：中部国際空港関連陶磁器製品の開発

指導分野：プロダクトデザイン